

a 学校教育目標	心豊かに かしく たくましく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 志を抱き、自らその実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 組織の一員としての自覚をもち、新たな教育活動の創造に向け、協働できる教職員が創る学校
----------	----------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	主体的で探究的に学ぶ児童を育成する。	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善 ・基礎・基本の学力の定着 ・帯タイムや家庭学習による繰り返し学習の徹底 ・漢字検定・計算検定テスト(学期毎)の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の単元テスト(確認テストも含む) 知識・技能 到達率70%未満 思考・判断・表現 到達率70%未満 ・漢字検定・計算検定テスト合格 90点以上(再テストも含む) ・R80を毎時間シェアしている児童の割合【R80】 ・児童アンケート(4項目)の肯定的評価 	0人	0人	0人	100	A	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストを含めて、全児童が到達率70%以上を達成した。一方、確認テストを含めない場合、到達率70%未満の児童が、「知識・技能」1人、「思考・判断・表現」7人いる。1学期と比較すると「知識・技能」の人数は減少しているが、「思考・判断・表現」の人数は1人増えている。 ・漢字検定90点以上の児童の割合98%、計算検定90点以上の児童の割合100%であった。児童によって、取組姿勢に差があるものの1学期よりも合格人数が増えている。 ・R80をシェアしている児童の割合は上半期よりも増えた。すべての児童が「できている」と言い切るまでと少くである。 ・評価項目にはないが、単元内で自らの生活や他教科との関連をR80で書いた児童は80%であり、充実・発展に向かっていく。 ・児童アンケートの肯定的評価は、指標4項目で目標値を達成した。特に、「今日の学習のまとめを自分の言葉で書こう」として、学習の振り返りを書いたりして【R80】の肯定的評価98%、「授業では、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています。」の肯定的評価は91%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、確認テストで積み残しがないようにしていく。また、ぐんぐんタイム、ミライシードを活用し、各単元の復習を継続して行っていく。 ・漢字検定の問題数や出題方法、実施時期、指導体制を見直し、児童が粘り強く取り組めるようにしていく。 ・授業の終末5分でR80の記入と、シェアを確実にやっていく。今後も内容の質的向上を目指して、生活場面や他教科へのつながりを意識した授業の改善を進め、児童の気付きをR80に書かせる取組を継続して行っていく。 ・児童アンケート「話し合いでは、考え方の同じところやちがうところを見つけたり、見つけたことからもういい考え方やきまりがないか考えたりしています。」の項目に引き続き課題がある。算数の授業内で、「基準量」に焦点を当て、教師の発問や板書の整理、話し合いの焦点化を行うことで、効率的な問題解決の方法や規則性を見つけている児童の割合を増やす。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの項目の達成値が高い。先生方の日々の指導の賜物である。 ・繰り返し取りこぼしのないよう粘り強く取り組まれている。引き続き一人一人に寄り添い学力を定着させてほしい。 ・R80の取組を継続することで、児童の思考力が育成されると思う。授業の中だけの振り返りにとどまらず、生活場面へつなげるなど、様々なことと繋げて考える発想力を子どものころから鍛えてほしい。 ・授業中の児童同士が認めあう温かい雰囲気を感じた。少人数・複式学級のよさは、児童が自分たちで学習をしていくという児童の主体性である。そのよさを生かして、建設的な意見が出し合える学習集団づくりに引き続き取り組んでほしい。
豊かな心・健やかな体	心も体もたくましい児童を育成する。	認め合い支え合い、自ら伸びる、ともに伸びる児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで決めた目標の達成に向けて粘り強く取り組むことを通して、自己有用感や集団の意識を向上させる。 ・【3年生以上】児童会活動を通して、学校をよりよくすることに貢献できたと思う児童の割合【1・2年生】自ら進んで協力し、楽しみながら、わくわく遊びや委員会の取り組みに参加できた児童の割合 	80%	98%	92%	115%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前の自分と比べてよくなったと感じている児童の割合は92%で、目標を達成することができた。保護者アンケートでも、「わが子は自分のよい所を知っている」という質問に対して、96%の保護者が肯定的な回答をした。 ・「体を動かすのが好き」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は94%であった。10月と比較すると4%上昇しており、引き続き外遊びを推奨し、楽しく運動できる時間を確保していく。 ・3年生以上に行った「児童会活動を通して、学校をよりよくすることに貢献できたと思う児童の割合」は94%で、多くの児童が主体的に児童会活動に取り組んでいる。 ・1・2年生に質問した「自ら進んで協力し、楽しみながら、わくわく遊びや委員会の取り組みに参加できた」と回答した割合は100%で、低学年全員が楽しみながら、活動に参加できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長の実を通して、自分や友達のよいところを見つけているので、自己肯定感が高い児童が多い。校内掲示や放送を引き続き実践し、認め合える集団づくりを目指す。 ・健康委員会による「マラソンカード」で、多くの児童が休憩時間に走ることができた。また、できるようになったことに「二重とび」や「はやぶさ」と回答している児童もおり、なわとびも積極的に取り組んだ。今後も継続して、外遊びを奨励していく。 ・2学期は、児童会による「わくわく遊び」、図書委員会による「読み聞かせ」や「スタンプラリー」、環境委員会による「花の折り紙」「ピカピカタイム」など、新たな取り組みを企画し、運営できた。特別活動の意義を踏まえ児童の自己有用感、自己肯定感、達成感の向上への取り組みであるという事を教職員で共有し、マンネリ化しないよう、児童の実態に即した新たな活動も取り入れていく。 ・低学年全児童が協力し、楽しみながら、わくわく遊びや委員会の企画に参加できている。今後も、全学年楽しめるかという視点を大切にしたり取り組みを続けていく。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動の委員会活動を充実させ、学校をよりよくするために児童自らが企画し、運営している活動はすばらしいと思う。また、参加する低学年の児童も、楽しく協力していることで、学校全体の雰囲気が良いと感じる。そのことで、児童の自己肯定感や自己有用感が高まり、評価の達成値が高い。 ・体力づくりでは、様々な企画をされている。外遊びをする児童も減ってきている中、よい取組である。継続して運動をするような企画を行ったらどうだろうか。楽しく体を動かす児童を育ててほしい。 	
信頼される学校	学校と保護者・地域及び関係機関との双方向の信頼関係を構築する。	コミュニティ・スクールを核とした地域との協働を通して地域が好きと実感できる児童を育成し、地域に開かれた信頼される学校の構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の推進 校務支援システム等、ICT機器を活用し、スケジュール管理の徹底を図る。 ・各部、各委員会の組織的な取組を進める。 ・PDCAサイクルを充実させる。 ・学校運営協議会を実働させ、地域教材を教育課程に位置付け、児童に地域の良さを実感させる活動や学習を進める。 ・積極的な情報発信 ICT機器を活用して、学校だより、HP、学級だより等で積極的に学校や学級の様子を発信する。 	100%	100%	100%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日について、職員全員が意識した働き方を行った結果、100%の達成ができた。定時退校日は引き続き継続し、他の日も17時30分退校など、職員それぞれのライフワークバランスが取れていくような職場づくりを行っていく。 ・月の時間外勤務時間が、30時間以内を達成できている。計画的な年休取得の推進、1年間の教育活動を見通した早目、早目のスケジュール管理の徹底、声掛け、業務量の分担等で達成することができた。 ・2学期に実施予定だった地域学習を確実に、適宜学校だよりや学級通信等で発信した結果、保護者アンケートの地域学習についての項目が、94%から96%に上昇した。児童は、地域の方々にお礼の手紙を書くなどし、交流を深めることができた。 ・情報発信については、高い数値を維持することができた。引き続き、開かれた学校づくりに努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「三原市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」が策定されることを知り、沼田小学校は先進的に働き方改革をしていると感じる。教員のライフワークバランスは大切であるので、引き続き取り組んでほしい。 ・学校運営協議会を活用し、学校教育活動の発信に努め、地域と保護者との連携・協働する教育活動を計画・実践していく。 ・地域学習の際の振り返り(R80)を活用し、より地域への愛着、地域へ貢献していきたいと思う児童の育成に取り組む。 ・情報発信での好事例を職員間で共有するなどし、より家庭と学校が一体となって教育活動ができるよう取り組んでいく。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・「三原市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」が策定されることを知り、沼田小学校は先進的に働き方改革をしていると感じる。教員のライフワークバランスは大切であるので、引き続き取り組んでほしい。 ・今年度コミュニティスクールを始動させた。今年度の取組を振り返り、より地域・学校・保護者が協働し児童を育成していく取組が実施できるようパワーアップさせていく。地域に愛着をもった児童を育成してほしい。 	

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。